

企画展 意東焼－松江で作られた幻の磁器－（仮）

開催要項

東出雲町の意東は、古くから窯業が盛んで、磁器や煉瓦・瓦などの生産が行われてきました。その中に、松江藩の殖産政策の重要な産業の一つとして生まれた「意東焼」と呼ばれる磁器があります。

意東焼は、意宇郡下意東村(現、東出雲町下意東)で藩窯として開いた窯で製作された磁器のことで、白い地に呉須釉と呼ばれる青い釉薬で絵付けを行う染付という技法でつくられ、大皿・徳利・猪口・花器をはじめとした日常雑器が多く伝わっています。意東焼の歴史は、天保3年(1832)ごろに、意宇郡下意東に他領から多くの職人を招き、磁器の生産が開始したことから始まります。操業期間については、7～8年と極めて短いものの、藩内の磁器の自給率を上げるために多くの意東焼が作られたといわれています。ただし、現存する意東焼は多くはなく、その希少性により出雲地域では大事に保管されています。この度、県内に保管されている意東焼を一斉に展示し、その特徴について改めて見直すとともに、松江藩が磁器の製作に取り組んだ軌跡をたどります。

1. 会 期（予定） 令和8年（2026）4月24日（金）～6月14日（日）
（46日間、※休館日含めて52日間）
開館時間：9時00分～17時00分（最終入場は16時30分）
休館日：毎週月曜日、ただし祝日は開館し翌平日が休館。
2. 会 場 松江歴史館 企画展示室
3. 主 催 松江歴史館
4. 観覧料（予定） 大人680円、小・中学生340円（団体（20名以上）は、2割引）
基本展示室とのセット券の料金は大人1030円、小・中学生520円
5. 担 当 者 松江歴史館 副主任学芸員 大多和弥生（主担当）
住所：島根県松江市殿町279番地 電話：0852-55-5511（直通）
FAX：0852-32-1611 E-mail：rekishi@city.matsue.lg.jp